

令和7年度 2学年

== 専門教科 ==

機関工学科

教科	水産	科目	電気理論	単位数	2	学年	2	学科	機関工学科
使用教科書	電気理論 (海文堂出版)		副教材				対応資格		

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産業や海洋関連産業において必要となる基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
電気機器や電子機器の取扱いについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	電気機器や電子機器の取扱いに関する課題を発見し、電気機器や電子機器の取扱いに従事する者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	電気機器や電子機器の適切な取扱いを目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・学習の過程を通して知識及び技能を習得しているか。 ・その知識及び技能を、既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりして他の学習や生活の場面に応用できるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・獲得した知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面。 ・上記に述べた粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 電気回路の基礎 第1節 直流回路 第2節 電気抵抗の性質 第3節 電気エネルギー 第4節 交流の性質と交流回路	電気回路の基本的な内容について理解するとともに、関連する技術を身に付けること。	電気回路における課題を発見し、合理的かつ創造的に解決すること。	電気回路の適切な取扱いについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むこと。
第2章 電気と磁気 第1節 静電気 第2節 磁気 第3節 電流と磁気 第4節 電磁誘導	電気と磁気の基本的な内容について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。	電気と磁気における課題を発見し、合理的かつ創造的に解決すること。	電気と磁気に関する諸現象について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むこと。
第3章 半導体素子と電子回路 第1節 ダイオードとトランジスタ 第2節 各種の半導体素子 第3節 電子回路	半導体素子と電子回路の基本的な内容について理解するとともに、関連する技術を身に付けること。	半導体素子と電子回路における課題を発見し、合理的かつ創造的に解決すること。	半導体素子と電気回路に関する諸現象について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むこと。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれか、若しくはすべてについてABCで評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括をABCで行う。(仮評価)また、2、3学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3学期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
観察・実験	○		
小テスト	○		
発表・話し合い		○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

教室で座学を行う。正しい服装・態度で参加し、教科書・ノート等、忘れ物の無いよう注意すること。

教科	水産	科目	課題研究	単位数	2	学年	2	学科	機関工学科（工学コース）
使用教科書	機械設計工作（海文堂） 高等学校エンジン技術検定		副教材	本校作成テキスト	対応資格		高等学校エンジン技術検定		

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産業や海洋関連産業において必要となる基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
水産や海洋の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。	水産や海洋に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
水産や海洋の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けている。	水産や海洋に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作品制作（アルミ鋳造実習）	鋳造作業を理解するとともに、関連する工具や作業機器等関連付けられた知識と技術を身に付けている。	作業に関する課題を発見し、解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。
高等学校エンジン技術検定2級	資格取得のため、関連する専門知識や技術が身につけている。	学習への取組や作業に関する課題を発見し、解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	資格取得のために取り組む態度が身に付けている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点について abc で評価する。（評価基準は単元ごとに設定）この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括を ABC で行う。

また、2、3学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3学期末（年度末）には、累計した観点別の総括（評価）を下の表のように1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

評価の組合せ	評定
AAA	5
AAB	5
ABB	4
AAC	4
ABC	3
BBB	3
BBC	3
ACC	3
BCC	2
CCC	1

【目標の実現に向けた学習状況】

- a, A: 「十分満足できる」状況と判断されるもの
- b, B: 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
- c, C: 「努力を要する」状況と判断されるもの

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査			
観察・実験			
小テスト	○		
発表・話し合い			
ノート・レポート	○	○	
作品制作	○	○	○
発言・行動観察	○	○	○
自己評価・相互評価	○	○	○

5 担当教員から

鑄造実習は実習場で、エンジン技術検定の座学は教室で行う。時間厳守、正しい服装・態度で参加し、教科書・実習ノート・実習着等、忘れ物の無いよう注意すること。特に鑄造実習は、溶けたアルミニウムを使用するので、先生方の指示にはしっかり従うこと。

教科	水産	科目	総合実習	単位数	9/1	学年	2・3	学科	機関工学科（機関コース）
使用教科書	船用機関1 機械設計工作		副教材	機関工学科作成テキスト		対応資格			

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産業や海洋関連産業において情報技術を活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
水産や海洋の各分野について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	水産や海洋の各分野に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	水産や海洋の各分野に関する総合的な知識と技術の実務への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
水産や海洋の各分野について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	水産や海洋の各分野に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	水産や海洋の各分野に関する総合的な知識と技術の実務への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1. 機関の分解 ・分解 ・洗浄 ・計測 ・組立 ・試運転 ・まとめ	船用機関の分解について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	船用機関の分解に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	船用機関の分解に関する総合的な知識と技術の実務への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付けている。
2. 機関乗船実習(機関コース)	機関乗船実習について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	機関乗船実習に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	機関乗船実習に関する総合的な知識と技術の実務への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付けている。

3. 機械工作実習	機械工作について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	機械工作に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	機械工作に関する総合的な知識と技術の実務への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付けている。
-----------	--	--	---

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括を ABC で行う。(仮評価) また、2、3 学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。後期期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を 1・2・3・4・5 の 5 段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テスト			
実技	○	○	○
レポート	○	○	○
グループワーク	○	○	○
発言・行動観察	○		○
自己評価・相互評価	○		○

5 担当教員から

- ・船用機関の分解

【場 所】 船舶機械工作実習室

座学の場合は、模型室または電気計測機器実習室で実施。

時間厳守、実習服、実習帽等正しい服装、態度で参加すること。また、忘れ物等無いよう注意すること。

日直は、指定する時間に機関準備室に行き、実習ノートを受け取るとともに当日の実習指示を仰ぐこと。

- ・機関工学実習、機械工作実習

【場 所】 産振棟各実習室

時間厳守、各実習担当教員の指示による服装、態度で参加すること。また、忘れ物等無いよう注意すること。

教科	水産	科目	総合実習	単位数	6/2	学年	2・3	学科	機関工学科（工学コース）
使用教科書	船用機関1・2 機械設計工作 電気理論	副教材	機関工学科作成テキスト			対応資格			

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産業や海洋関連産業において情報技術を活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
水産や海洋の各分野について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	水産や海洋の各分野に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	水産や海洋の各分野に関する総合的な知識と技術の実務への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
水産や海洋の各分野について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	水産や海洋の各分野に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	水産や海洋の各分野に関する総合的な知識と技術の実務への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1. 機関の分解 ・分解 ・洗浄 ・計測 ・組立 ・試運転 ・まとめ	船用機関の分解について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	船用機関の分解に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	船用機関の分解に関する総合的な知識と技術の実務への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付けている。
2. 機関工学実習(工学コース) ・機設実習 ・自動制御実習 ・冷凍実習 ・船内実習	機関工学実習について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	機関工学実習に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	機関工学実習に関する総合的な知識と技術の実務への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付けている。

3. 機械工作実習	機械工作について総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	機械工作に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	機械工作に関する総合的な知識と技術の実務への活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付けている。
-----------	--	--	---

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括を ABC で行う。(仮評価) また、2、3 学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。後期期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を 1・2・3・4・5 の 5 段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テスト			
実技	○	○	○
レポート	○	○	○
グループワーク	○	○	○
発言・行動観察	○		○
自己評価・相互評価	○		○

5 担当教員から

・船用機関の分解

【場 所】 船舶機械工作実習室

座学の場合は、模型室または電気計測機器実習室で実施。

時間厳守、実習服、実習帽等正しい服装、態度で参加すること。また、忘れ物等無いよう注意すること。

日直は、指定する時間に機関準備室に行き、実習ノートを受け取るとともに当日の実習指示を仰ぐこと。

・機関工学実習

【場 所】 産振棟各実習室

時間厳守、各実習担当教員の指示による服装、態度で参加すること。また、忘れ物等無いよう注意すること。

教科	水産	科目	海洋情報技術	単位数	E : 2 T : 3	学年	2	学科	機関工学科
使用教科書	海洋情報技術 (海文堂)		副教材				対応資格		

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、水産業や海洋関連産業において情報技術を活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
水産業や海洋における情報技術について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	水産や海洋における情報技術に関する課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	水産や海洋における情報技術の主体的な活用を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
水産業や海洋関連産業の国民生活における社会的意義や役割などについて体系的・系統的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	水産業や海洋関連産業全体を広い視野で捉え課題を発見し、水産業や海洋関連産業に関わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	持続可能な水産業や海洋関連産業の構築を目指して自ら学び、地域の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第2章 水産や海洋における情報コミュニケーションと情報デザイン 第2節 情報のデジタル化と情報処理	情報社会におけるコミュニケーションと情報メディアについての知識や技能を身につけている。	情報が水産や海洋関連産業に与える影響について考察し、その課題を創造的に解決しようとしている。	情報技術の水産・海洋の分野における活用を目指して自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第3章 コンピュータとプログラミング 第1節 情報の表現方法 第2節 アプリケーションソフトウェアの使用法 第4節 プログラミング	コンピュータで情報が処理される仕組みを理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	問題を発見・解決するために必要なモデル化とシミュレーションの方法について課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	コンピュータで情報が処理される仕組みをモデル化してシミュレーションやプログラムの活用について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括を ABC で行う。(仮評価) また、2、3 学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3 学期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を 1・2・3・4・5 の 5 段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テスト	○		
実技	○		○
レポート		○	○
グループワーク		○	
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

【場 所】 水産情報処理教室(実技、レポート作成)

教室(個人端末を活用した座学、グループワーク)

【留意点】 共通したテーマは～メリハリが大事～

①基本的に PC、端末を用いた操作は指示のある時のみとします。

※情報機器はそれぞれ高価なもので、学校全体で共有するものもあります。キーボードを叩くように打つなど、使用方法に問題がある場合は厳しく指導することがあります。

②定期考査は実施しません。

③定期的に小テストを実施します。

④制限時間、提出期限を厳守してください。

⑤設定される場面は、

ア. 説明等を聴く時間

イ. 個人で作業をする時間

ウ. グループで話し合う時間

エ. 教員に質問が可能な時間

オ. 生徒間で教え合うことが可能な時間

カ. エ. 及びオ. の両方が可能な時間

に分けられます。これらについてメリハリをつけ臨んでください。

⑥自由な発想と勝手な解釈は異なります。

教科	水産	科目	船用機関	単位数	3	学年	2	学科	機関工学科
使用教科書	船用機関1・2 (文部科学省)			副教材	危険物取扱者受験教科書 二級ボイラー技士教科書		対応資格	二級ボイラー技士	

1 目標

水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、船舶の機関及び機械装置の運転に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 知識及び技術	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
船舶の機関及び機械装置の運転や管理について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	船舶の安全運航に必要な機関の運転や管理に関する課題を発見し、船舶の機関及び機械装置の運転や管理に従事する者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	船舶の機関及び機械装置の安全かつ効率的な運転、管理を目指して自ら学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・学習の過程を通して知識及び技能を習得しているか。 ・その知識及び技能を、既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりして他の学習や生活の場面に応用できるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・獲得した知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面。 ・上記に述べた粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 熱機関の概要 第1節 熱機関の種類と沿革 第2節 熱機関に関する基礎	熱機関に関する基礎的な内容を理解している。	船舶の主機関として利用される熱機関の課題を発見し、合理的かつ創造的に解決しようとしている。	船舶の主機関として利用される熱機関について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第2章 内燃機関 第1節 内燃機関の概要 第2節 ディーゼル機関の構造	内燃機関の基本的な内容について理解するとともに関連する技術を身に付けること。	内燃機関に関する課題を発見し、その構造と取扱に着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	内燃機関について自ら学び、船舶の主機関の運転及び保守管理に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
第6章 ボイラ 第1 ボイラの概要 第2 ボイラの種類と構造	ボイラの基本的な内容について理解するとともに関連する技術を身に付けること。	ボイラに関する課題を発見し、その構造と取扱に着目して合理的かつ創造的に解決しようとしている。	ボイラについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技術】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれか、若しくはすべてについて abc で評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括を ABC で行う。(仮評価) また、2、3 学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3 学期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を 1・2・3・4・5 の 5 段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
観察・実験	○		
小テスト	○		
発表・話し合い		○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

教室で座学を行う。正しい服装・態度で参加し、教科書・ノート等、忘れ物の無いよう注意すること。